

詩集 青年の讃

池田大作



詩集

青年の譜

池田大作

詩集 青年の譜

昭和四十七年一月二十日 第一刷

著者 池田大作

発行者 二宮信親

発行所 読売新聞社

東京都中央区銀座三の二の一 一〇四
大阪市北区野崎町七七 一五三〇
北九州市小倉区明和町一の二 一八〇二

印刷所 凸版印刷株式会社
製本所 凸版製本・協和製本

定価 七〇〇円

©, Daisaku Ikeda, 1972

0092-700900-8715

詩集・青年の譜
目次

建設

青年の譜

九

文化と大地

三四

革新の響

四六

世紀の朝

五三

建設の譜

五八

栄光への門出に

六五

友

元初の太陽を浴びて

七三

生命の尊厳を護る者へ

七七

無冠の友

八一

平和の天使

八四

希望

八八

雑草

革命の河の中で

九五

雑草

一〇七

母

一一七

民衆

一三一

時

一三九

宇宙

一四五

天才

一五一

主題

一五四

ある文豪の生命

一五六

紅葉

一五九

富士

芒

一六三

爽やかな別れの日に 一六七

防塁跡 一七〇

厚田村 一七四

富士に祈る 一七七

富士と詩人 一八一

旅人 一八四

散る桜 一八七

森ヶ崎海岸 一九〇

地湧 一九三

星霜

熱原の三烈士 一九七

義経 二一八

メロスの真実 二二四

永遠の都

二三二

言葉

好きな言葉

二四三

財宝

二四五

月光

二四七

夜

二五〇

春風

二五二

五月の海

二五四

秋風

二五六

雪

二五八

夢

二六二

少年

二六四

信仰者

二七一

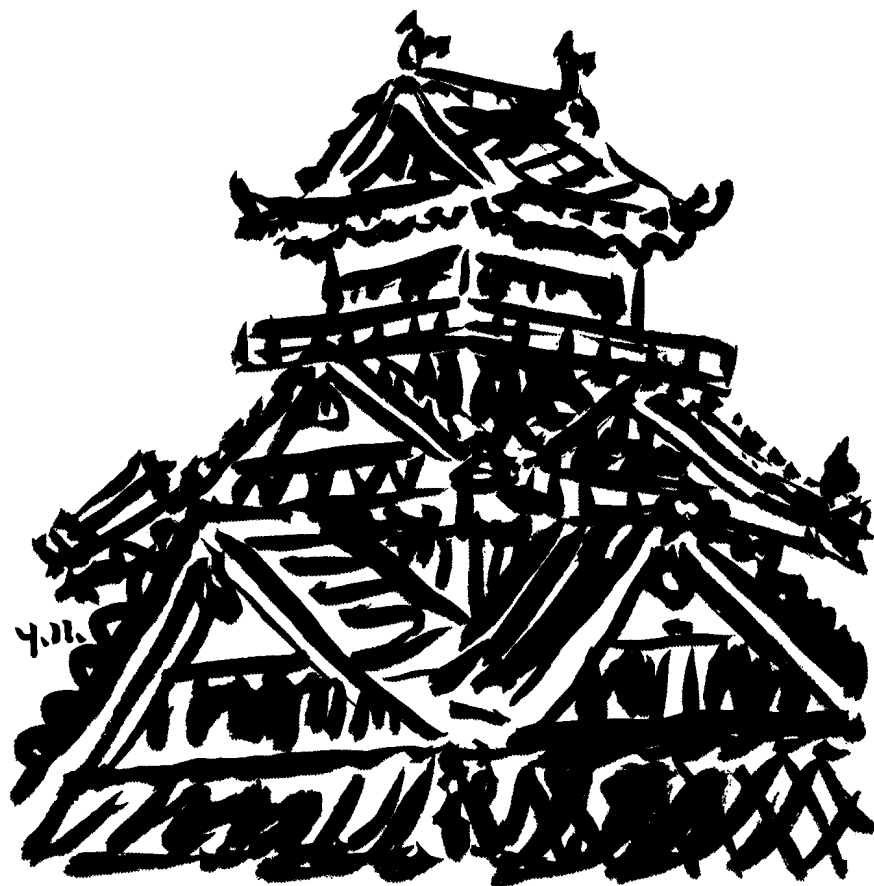
あとがき

二七四

装画・カット

野口彌太郎

建設



青年の譜

天空に雲ありて

風吹けど

太陽は 今日も昇る

午前八時の青年の太陽は

無限の迫力を秘めて

滲透しつつ 正確に進む

己れの厳しき軌道を はずさずに

天座のかなた 蒼穹狭しと

王者赫々と

太陽は ただ黙然と進む

無知の英知 文化の斜陽

機械化の人間 哲学の死滅

陰險なる権力 欺瞞と邪智

その覚醒のためにか

黄金の光り放ちて 彼は悠然と進む

纏綿^{てんめん}として人間の群像あり

その相争い 絶え間なき地球

逡巡^{しゅんじゅん}と叛乱の 苦悩うず巻く世界

抑圧の機構に

生命の光り 消えゆかんとする人生

その上空を

新しきバイタリティーを要求しつつ彼は進む

日蓮が仏法は 太陽の如し

われらが信仰もまた太陽たり

体系と純誠と悟性の大道を

蘇生の実証のために

怒りをはらみて われらは進む

われらは遂にこれを見つけた

本源的人間への挑戦

これ人間革命の戦いなりと

いま一人より立ちて

七百万の民衆^{ども}となる

あの地にも この地にも

あの職場にも この家庭にも

友は戦い 友は勝った

この素顔の歓喜^{よろこび}は 万波とうねり

はや 第三の勢力となる

自我常樂の人生を雄々しく歩む友

庶民文化を謳歌する 無限創造の友

階級論理を止揚しつつ戦う勇敢な友

新生命の形成に不断の努力惜しまぬ友

社会に根ざし栄光と不動の道を征く友

家庭革命に勝利し 幸さいちの鐘を乱打する友

着実にして

誠実なる無血の世紀の戦いくさに

感情と狼狽と嫉妬ともがらの輩は

三類の卑怯なる敵と化し

われら堂々の平和の道を塞ふさぐ

その妬み

砂塵の如く 嵐の如く狂う

われらは断じて恐れない

永遠の生命の旗持てり

われらは さらに進む

革命の旗 高く掲げたり

おお

日蓮が法門は 青年の哲学

反動と憎嫉の要塞に向かつて

白馬にまたがり

毅然と陣列行進するであろう

幕は落ちた 第二の十年

線上より 広く面上にうつり

高く聳えゆく

二十一世紀の結実の文化の作業をするのだ

それは 君達の踏む檜舞台！

誇り高き 初登場だ！

われには われのための使命がある

君にも

君でなければ 出来ない使命がある

青春の躍動せる力なくして

老いたる世代に 何ができるか

未完成より 完成への構築の坂

青春の歌

文化の曲

革新の銅鑼^{どら}を 鳴らしながら

勇壮に 雨に打たれて働こう

黒き瞳